

税の役割とは？

横手南中学校 今井 優奈（いまい ゆうな）

みなさんは公費負担医療制度を知っていますか。公費負担医療制度とは、医療費の全部または一部を国や地方自治体が負担する制度で医療費助成制度のひとつです。

これを知ったきっかけは、私の祖母がこの制度を利用していたためです。祖母は指定難病を患っていました。難病法による特定医療費助成制度とは、治りにくく日常生活に困難を及ぼす病気にかかっている人に対して医療費の自己負担を助成するので医療費が経済生活を圧迫せず安心して治療を受けるようにする制度だそうです。私の祖父は専門医の診察、訪問診療、看護師の毎日の訪問、とても高額な薬の使用が必要でした。これだけの医療を全額自己負担で賄っていたらどうなっていたことでしょう。祖父が祖母を看護している時に「公費負担医療制度によってたすけられているなあ」と言っていたことを思い出しました。この名前だけを聞くと難しそうだと思いますが、すぐ身近な制度だと感じました。それと同時に医療を受けられることはあたり前ではないと感じました。

正直、祖母が難病だと聞かされた時、不安だったしとても悲しい気持ちになりました。けれどこの制度が私たち家族と祖母の時間を作ってくれたり、安心を与えてくれました。私はこの時まで税金について知らなかったけれど、税金はこんなにも大きな力があるのだと感じました。税金がどのように使われているのか知ること大切だと改めて思いました。この出来事を通して税金のありがたみを感じたと同時に私たちは支え合って生きてきたのだと感じました。二〇一九年に消費税が十%に上がりましたが私はどうして上げるのか疑問に思っていました。社会保障が充実している国では消費税が二十五%だそうです。このことから、税は私たちの暮らしを豊かにする社会の礎だと思いました。そして税によって支えられている制度は、私の祖母のように困っている人を助けてくれるものだと思います。税によって幸せな生活を送れている人はたくさんいると思います。私たち家族と祖母に幸せを届けてもらい支えていただいた分、私も大人になったらきちんと税を納め誰かの助けになりたいです。